



Title	逆瀬氏秘蔵先儒墨跡
Author(s)	木村, 英一
Citation	懷徳. 1982, 51, p. 40-42
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90602
rights	
Note	

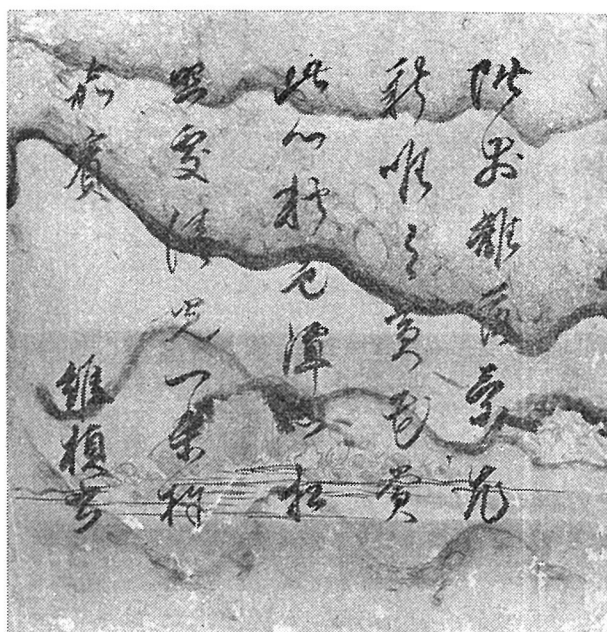
The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

逆瀬氏秘藏先儒墨跡

釈文 木村英一



一、伊藤仁斎

階前離落索尤

新唯有黃花賞

此心秋色潭心相

照處清光一朵杵

喜賓 維楨書

階前の離落^{さびし}索^{もつと}きこと尤も新なり、唯黃花有りて此の心を賞す、秋色潭心相照す處、清光一染嘉賓に杵づく

維楨書

池亭残雨濕葦葭羅
扇風涼露有華螢
火不知人暗坐低飛時
又過窓紗

蘭洲外史

二、五井蘭洲

〔古狂〕

池亭残雨濕葦葭羅
扇風涼露有華螢
火不知人暗坐低飛時
又過窓紗

蘭洲外史

池亭の残雨兼葭^{あし}濕ふ、羅扇風涼しく露に華有り、螢火は人の暗するを知らず、低く飛び時に又窓紗を過ぐ

蘭洲外史

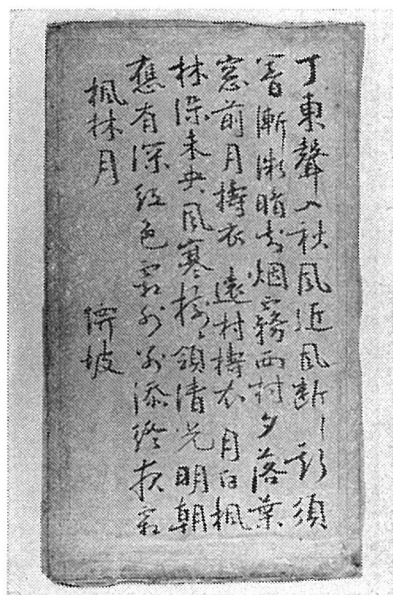
三、関 思恭

人日書所見 吾諫年例以此日盡會邑民賜酒食、俗稱謂百姓振舞
一雨東風簇軟塵 四郊歌
舞湧芳春 堪知今日城中
鋪 戸々扶歸盡醉人

渭水思恭稿

人日見る所を書す
吾は諫む、年例として此の日を以て尽く邑民を會して酒食を賜ひ、俗に稱して百姓振舞と謂うことを。
一雨東風軟塵を簇む、四郊の歌舞芳春に湧く、知るに堪へたり今日城中の鋪、戸々扶け帰るは尽く醉人

渭水の思恭稿



丁東聲入秋風近風斷斯須
闇漸漸暗知烟霧西村夕落葉
窓前月擣衣遠村擣衣月白楓
林染未央風寒樹々領清光明朝
應有深紅色霜外別添終夜霜
楓林月 僊坡

四、中井蕉園

丁東聲入秋風近 風斷斯須

闇漸漸 暗知烟霧西村夕 落葉

窓前月擣衣 遠村擣衣月白 楓

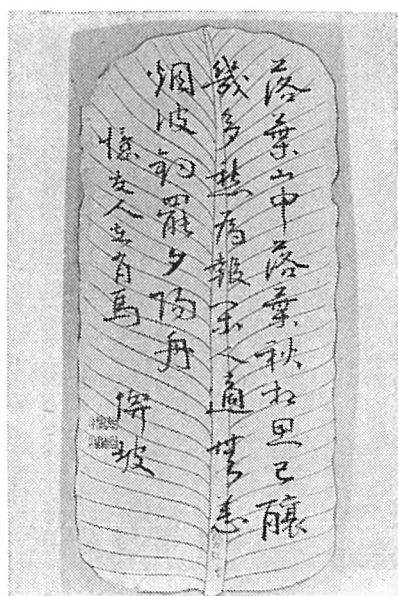
林染未央 風寒樹々領清光 明朝

應有深紅色 霜外別添終夜霜

楓林月 僊坡

丁東の聲は秋風に入りて近し、風断えて斯須闇漸々、
暗に知る烟霧西村の夕、落葉窓前月に衣を擣つを、遠
村衣を擣つに月白からんも、楓林は染むこと未だ央な
らじ、風寒くして樹々清光を領けて、明朝には応に深
紅の色有らん、霜外別に終夜の霜を添ふれば、

楓林の月 僊坡



落葉山中落葉秋相思已釀
幾多愁為報閑人適無恙
烟波釣罷夕陽舟
憶友人在有馬 僊坡

五、中井蕉園

落葉山中落葉秋 相思已釀

幾多愁 為報閑人適無恙

烟波釣罷夕陽舟

憶友人在有馬 僊坡

仙坡

落葉の山中落葉の秋、相思ひて己に釀す幾多の愁、為
めに報ず閑人適恙無し、烟波釣り罷む夕陽の舟
友人の有馬に在るを憶ふ 僊坡